

札幌大学
札幌大学女子短期大学部
学長 宮腰 昭男
FD推進委員会
委員長 岩堀 洋士

平成16年度 春学期

「学生による授業評価アンケート」に見る授業実態について

本学では、FD推進委員会が中心となり、教員が授業内容、方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みの一つとして、「学生による授業評価アンケート」を全学的に実施し、集計分析結果から得られた授業実態に基づき、より良い教育サービスを学生に提供することを目指しています。

学生による授業評価アンケートは、平成13（2001）年度より大学全体として組織的に取り組み、年2回（春学期・秋学期の各期末）実施していますが、1回のアンケート調査には延べ2万人を超える学生が参加しています。

このたび、平成16（2004）年度春学期に実施したアンケート調査をもとに、各学部学科単位の集計・分析も行い、その結果を公表することとなりました。

過去のアンケート調査を分析した結果、「履修動機」の如何が、全体としての評価にも受講成果にも大きく反映していることが確認されました。また、今後の「授業改善・授業成果の全般的底上げ」への組織的取り組み並びに個別的取り組みのためにも、「履修動機」を軸とした分析結果を情報提供することの必要性を感じました。したがって今回の実態報告にあたっては、履修動機を軸とした分析を中心に据えました。更に、個別科目の実態報告においては、担当教員・受講学生双方に学び取っていただきたく、一部ではありますが履修動機・評価別の自由記述も載せました。

学生評価の高い授業だけを提供するのではなく、さまざまな個性ある授業を提供することによって大学は成り立ち、学生たちの知的好奇心を多角的に刺激できるものと考えています。そのことの検証が学生による授業評価アンケートでもあります。学生による授業評価アンケートを行い、集計、分析することは、学生の履修動機や満足度などが推測できるため、今後の授業改善に直接役立てることができるとともに、授業環境への組織的取り組みのための課題、各学部カリキュラムの充実のための基礎資料も提供できると考えています。

これまでの学生による授業評価アンケート及びその成果・問題点に基づき、平成16（2004）年度秋学期からは新たな設問項目からなるアンケートを実施しました。履修目的、学生自身の授業への取り組み姿勢、授業の受け止め方、授業から得たもの、満足度等、より詳細なデータを収集・分析できるよう調査項目を再編成しました。個性ある授業の提供を維持しつつも、個々の授業の一層の改善を図るため、情報の収集・提供に努めていきたいと考えています。

今、平成16（2004）年度秋学期の集計・分析作業を進めています。一層「迅速・的確」な情報をできるよう、努めてまいります。

また新たな報告ができるものと思います。